

事業紹介・事業報告

5回目を迎えた研究開発助成事業について

田中救人
研究第二部
次長



1. はじめに

JICEでは、住宅・社会資本整備に係わる総合的、先進的な研究開発が今後ますます重要となると考え、平成11年度に、研究開発助成制度を創設した。

その趣旨は、「住宅・社会資本整備に係わる先進的な技術の研究開発を促し、より良い社会資本整備に寄与することを目的として、優れた研究開発に対し助成を行う」ことにある。過去4回の助成により計44件の研究に対し助成を行ってきた。

平成15年度は、第5回目の助成となり、平成15年の6月～8月に公募し、平成16年1月に助成対象者を決定した。また、研究の成果を社会へ還元する試みの一つとして第3回成果報告会を開催した。

以下に、当事業の平成15年度の活動に関して報告する。

2. 平成15年度助成事業の内容

2.1 平成15年度（第5回）助成の実施

(1) 研究開発助成の対象

平成15年度（第5回）助成の対象は以下のとおりである。①と②を同時に満たすものの中から助成対象を選定する。内容は14年度と同様である。

- ①研究開発の内容が、建設分野以外の各種技術・観点も積極的に取り入れることにより、今後の我国の建設分野の新たな展開が望めるもの。
- ②研究開発の成果が、次のいずれかに該当するもの。
 - ・地域の生態系の保全・回復による良好な生活環境の確保や、地球環境問題への対応による人類の生存基盤の確保に寄与するもの。
 - ・都市の美観形成、文化遺産の保全、都市の活性化、防災など都市生活の快適、安全の向上に寄与するもの。
 - ・子供・幼児、障害者、高齢者などを含めた誰もが安全に安心して暮らせるための生活空間の確保に寄与するもの。

(2) 公募

公募時期は、平成15年6月から8月の3ヶ月間とした。15年度の申請者数は、65件であった。

(3) 申請者の概要

申請者の所属組織、研究分野等を簡単にまとめると以下のとおりである。

所属組織は、大学が58件（89%）、ついで高等専門学校が4件（6%）で、この両者でほとんどを占める。この他、民間企業1件、自治体の研究機関2件であった。民間企業からの応募は少ないが、最近の傾向として、大学との共同研究として応募する例が増えている。

研究分野別にみると以下のとおりとなった。

①都市生活の快適安全向上が最も多く38件（58%）、ついで②生存基盤確保19件（29%）、③安全安心の生活空間14件（21%）の順である。なお上記には①②の重複3件、①③の重複3件が含まれている。

また、研究方法別に整理すると、

・実験および解析34件 ・現地調査および解析11件
・モデルによるシミュレーション8件 ・システムまたはソフトウェア開発6件 ・統計解析4件 ・画像処理2件であった。手段は多彩であり、実際は上記の組み合わせが多く、私見であるが回を重ねるごとにその傾向が強くなっているようである。

(4) 助成対象者の決定

公募後、審査過程を経て、平成16年1月に助成対象者を決定し、表-1に示す11件の研究に対して助成することとなった。分野別に見ると、都市生活の快適安全向上が6件、生存基盤確保3件、安全安心の生活空間2件であった。発表後助成金の支払いを経て研究助成が終了するのは、平成17年3月末の予定である。

(5) 研究開発助成制度に関するアンケート結果

毎年実施方法を改良しつつ今日に至っているが、さらに制度をより良いものにしていく際の参考とするために、アンケート調査を実施し、制度を利用する側の意識の分析を試みた。結果をごく簡単に紹介する。

調査は既に助成を受けた研究者（H13年度助成対象者）

（回答9件）と、これから助成を受けようとする申請者（H15年申請者）（回答20件）に対して行い、前者には研究助成のメリットを、後者には応募の動機、制度の利用のし易さ等を中心に聞いた。

①助成を受けたことによるメリット

助成を受けた研究者は、「自由に使える研究費を獲得できた」こと、さらにそれにより「研究が進んだ」ことを評価している（6件）。このほかに「報告会開催がよかった」（2件）がある。JICEの発信機能に期待されているとも考えられる。

②応募の動機

応募の動機として最も多かったのは、「募集の趣旨と研究テーマが合致していると判断したため」との回答で、12件あった。詳細に見ると、「研究テーマが合致していた」（9件）のほかに、「社会への貢献」、「JICEの趣旨に共感」などがある。ついで、「研究費の確保」があげられている。なかには、「この助成以外申請できない」との回答もあった。

ちなみに、各種助成制度に年間どの程度申請しているかを調べたところ、人により0件から15件とばらつくものの平均では5.3件との結果となった。研究費獲得に各種助成制度を利用しようと努力されていることがうかがえる。

③応募時期、期間、申請書に関して

時期、期間に関しては80から100%が適当と回答し、申請書に関して、理解のし易さ、分量、内容等80%以上が適当と回答していた。

事務手続き面ではほぼ満足される程度になっていると考えられる。

④要望事項

2つのアンケートから項目を整理した。

「費用の使途を緩和してほしい」、「小口、大口の助成に分けてほしい」、「証拠書類の提出が難しい」、「助成金額の増額」などの費用面に関する要望があった。その他、「ローテクにも注目して欲しい」との回答もあった。費用に関しては当方の想定する費目と申請者の側の都合が合わない場合もあるが、無原則に緩和できないので悩ましいところではある。

表-1 平成15年度助成研究一覧

助成研究名	研究者所属	研究者氏名
細街路を対象にした速度抑制デバイス（ハンブ）の設計と適性間隔	佐賀大学理工学部	清田 勝
CFRP補修構造物の損傷モニタリングによる健全度診断	東北大学 工学研究科	福永 久雄
コンニャク石を模倣した可撓性セラミックス構造材料の開発	名古屋工業大学セラミックス 基盤工学研究センター	太田 敏孝
地下空間の水害危険度評価手法の開発と 防御システムに関する研究	京都大学 防災研究所	戸田 圭一
超音波ガイド波モードを用いた大型構造物の モニタリング	名古屋工業大学 工学研究科	林 高弘
既存鉄筋コンクリート集合住宅の低負荷型 耐震補強技術の開発	鹿児島大学工学部	塩屋 晋一
Xバンドレーダを用いた干潟の地形・流動環境 のリモート観測	筑波大学 機能工学系	武若 聡
文化財のアクセスとバリアフリー整備に関する 研究	国立明石工業高等 専門学校建築学科	大塚 毅彦
ヒートアイランド対策と地下水位上昇対策として の地下水利用舗装冷却手法の研究	東京大学大学院 工学系研究科	徳永 朋祥
焼却灰溶融スラグの地盤材料としての有効 活用	熊本大学工学部	林 泰弘
公共空間における高齢者を対象とした音声・ 音響情報伝達手法の最適化に関する研究	神戸大学工学部	森本 政之

申し込み順に並べています。

2.2 第3回研究開発助成成果報告会の実施

平成15年11月28日（金）に一般公開で第3回JICE研究開発助成成果報告会を実施した。今回発表していただいたのは、平成13年度（第3回）助成の研究成果である。JICEでは、成果の社会還元の一環として報告会を重視している。

当日は、藤本隆宏氏（東京大学教授）による記念講演も併せて実施し好評であった。詳細は巻頭の「記念講演」をご覧ください。

3. おわりに

早いもので制度創設から5回目の助成を行うまでになった。次第に社会との関わりが確固としたものになってきたことと、期待される機能が明確になってきたと思われる。

研究開発に携わる方々にとって当事業がより有用なものとなるよう、今後ともさらに努力していきたい。